

事務事業名	栃木SC支援事業				担当	教育委員会 スポーツ振興課 指導係		
政策名	1	「人づくり」～豊かなこころアップ！～				☒ 総重（総合計画重点事業） ☐ 戦拡（総合戦略拡充事業）	☐ 総新（総合計画新規事業） ☐ 戦新（総合戦略新規事業）	
施策名	6	生涯スポーツ・レクリエーションの振興						
関連個別計画					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 毎年度実施（開始年度 平成20 年度～） ☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
法令根拠	真岡市補助金等交付規則							
予算科目	1.一般会計	10.教育費	5保健体育費	1保健体育総務費				
予算科目								
予算科目								
事業概要	真岡市は、「市民ひとり1スポーツ」をスローガンに体力の向上に努めており、特に、スポーツを通して青少年の健全育成を図ることは、必要不可欠なことなので、栃木SCの豊かな経験と卓越した技術をもとに、本市の子どもたちに夢を持つことの大切さ、フェアプレー精神の重要性など、プロの選手に直接触れることで伝えられるとともに、栃木SCの支援、更に本市のPRを実施している。 栃木SC支援真岡市実行御委員会を組織する。 事業内容・少年サッカー教室の開催（栃木SC選手による指導及びサイン会等） ・真岡市民デーの開催（栃木SCのホームゲームでの公式戦観戦及び真岡市のPR・物産販売等） ※交付金 H30:700千円 → R1:600千円 △100千円							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）				④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
6年度実績 実行委員会の開催 真岡市民デーの開催（市制施行70周年を記念した下記各種取り組みを実施） ・バナー広告等の70周年ロゴ使用版への変更 ・記念応援グッズの配布 ・記念横断幕を使用し、子どもたちによるフェアプレーフラッグの実施 ・市PR動画「もおかのいちご物語」を使用した、SCチアーズによるダンス 7年度計画 真岡市民デーの開催 少年サッカー教室の開催 令和6年度に日程不調で開催できなかった少年サッカー教室の振替として、少年フットサル教室を開催。				名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
ア 交付金額						600	600	600	600	600
イ 実行委員会開催数						2	2	2	2	2
ウ 少年サッカー教室等開催数						0	1	1	0	2
エ										
オ										
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 児童・生徒 実行委員会				⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
				名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
ア 児童・生徒						6,565	6,477	6,364	6,183	6,004
イ 実行委員会の人数						15	15	15	15	14
ウ										
エ										
オ										
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） サッカーを通して、少年スポーツ人口の底辺拡大を図る。 市民デーの開催により、真岡市のPRの場となる。				⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
				名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
ア 市民デー参加人数						490	464	568	767	600
イ 少年サッカー教室参加人数						0	19	63	0	200
ウ										
エ										
オ										
② 総事業費の推移				単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
			県支出金	千円	0	0	300	300	300	
			地方債	千円	0	0	0	0	0	
			その他	千円	0	0	0	0	0	
			一般財源	千円	600	600	300	300	300	
	事業費計（A）			千円	600	600	600	600	600	

2. 1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 市民ひとり1スポーツの振興及び心身ともに健全な少年スポーツの振興に結び付く。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 市民ひとり1スポーツの推進、少年スポーツの振興及び真岡市のPRは、市の責務である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) 生涯スポーツの振興を図っている。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある (評価理由) スポーツの振興と市のPRを行っている。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☐ 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名：) ☐ 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名：) ☒ 類似事業はない (評価理由)
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある (評価理由) 交付金のみであり、必要最小限の経費である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) ☐ 廃止 ☐ 見直し(☐ : 目的妥当性 ☐ : 有効性 ☐ : 効率性) ☐ 統合 ☒ 継続 市民デー開催により本市のPRを行っており、本市のスポーツ振興に必要な運営費補助交付金である。	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(2) 課題、課題の克服の方向性 児童生徒数の減少や余暇の多様化に伴う少年スポーツ人口減少の影響を踏まえつつ、市民の本事業への参加意欲向上を目指し、事業周知の強化を図る。																						

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足(説明責任不充分) ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
					コスト																		
			削減	維持	増加																		
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																							
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																						